

No.79

緑町二丁目  
にて

この街が好きだから

## 武蔵野スケッチ物語

絵と文・大須賀一雄

見慣れた風景も、絵になるとちょっと違う趣が出てきます。

そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。



この作品は、昨年の三月に緑町二丁目の交差点付近で、満開の桜をめながら描いたものである。

ところで、今どきは携帯で何でも調べられるが、私はこれまで物を覚えるのに、語呂合わせなどで忘れないように工夫して覚えてきた。例えば、滝の名を覚えるのに「エビフライ七ヶ」として記憶してきた。これは、エンゼル、ピクトリア、袋田、白糸、イグアス、ナイアガラ、那智、華厳のことで、おのずと世界と日本の有名な滝が含まれている。

最近考えたものでは、「お出掛けは、助さん、格さん、ガス、電気」がある。助さんは、スイカ(Suica・ICカード乗車券)、ケイタイ、サイフ、また格さんは、カギ、クスリのこと、この文の中には、私にとっては忘れると外出に支障をきたすものが含まれており、この文を覚えたことで事前に気付いて助かったことがある。忘れ物をしがちな方がおられたらぜひ覚えていただけたら、お役に立つことがあると思うのだが。

水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』(日貿出版社)、『スケッチお手本帖』(素朴社)、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『緑』(旅もようスケッチ会)ほか。現在、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も30回を超える。